

ステークホルダーとの対話・共創

お客さまや社会の価値観が常に変化する中、真に価値のある製品・サービスを提供するためには、さまざまなステークホルダーと対話し、共創するプロセスを、企業活動に組み込んでいく必要があります。

ステークホルダーとの対話を通じて、お客さまや社会の課題やNECの取り組みに対する社会の声に気づき、共創する仲間をつくり、価値へとつなげることで、NECが目指す「Orchestrating a brighter world」を実現したいと考えています。

国際社会のネットワークに積極的に参加し、 社会課題解決を目指す

2018年1月に行われた世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）および各種会合、個別面談、レセプションなどにおいて、NECの顔認証デモも含めたセキュリティソリューションを紹介しました。また、SDGsへの貢献や国際的な安全対策などのテーマについて、各国政府要人、国際機関幹部、グローバル企業経営者などと活発に意見交換を行いました。

ダボス会議で構築したグローバルな人的ネットワークを活用し、今後も継続的にさまざまなステークホルダーとの対話を深めていきます。



ダボス会議での
代表取締役 会長
遠藤 信博

オープンイノベーションで 社会価値増幅をはかる

NECは、企業内に蓄積されるビッグデータを活用した課題解決を加速するために、データ分析プロセスをAIによって自動化するソフトウェアを開発・販売する新会社dotData社の米国設立を2018年4月に発表しました。

NECの最先端コア技術の開発リーダーが新会社の創業者となり、スタートアップとして社外の資本も得ながら事業開発を加速させる、戦略的カーブアウト・スキームでグローバルに勝ち抜く製品を生み出していきます。



(写真左から)
執行役員 藤川 修
主席研究員 藤巻 遼平
(dotData社CEO就任予定)
エグゼクティブ・ディレクター 森 英人

Orchestrating a brighter world

お客さまとの共創による社会価値



安全



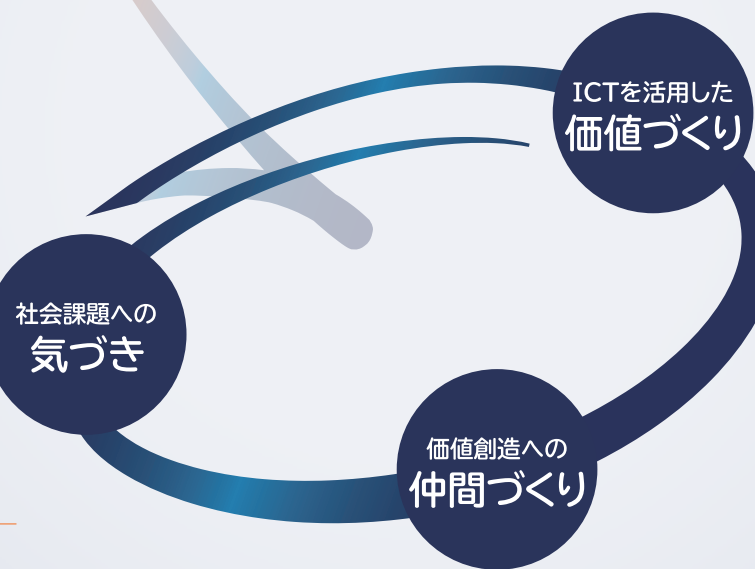
安心



効率



公平



取引先と共に 責任ある調達を実践する

NECでは、社会的責任の国際ガイドンス規格ISO26000や持続可能な調達の国際規格ISO20400をもとに「NECグループ調達基本方針」を策定し、取引先と共に、調達における6つの重点リスク（人権・労働・安全衛生、公正取引、環境、情報セキュリティ、品質・安全性）に留意した調達活動を行っています。

例えば情報セキュリティについては、NECのESG視点の経営優先テーマとして、取引先を含めて管理の強化と徹底をはかるため、当年度は、取引先の経営層向けの施策説明会を国内13カ所で実施し約1,500社が参加しました。また、これに加えて取引先の取り組み状況を確認する書類点検を実施するなど、取引先と共に情報セキュリティの強化に取り組んでいます。

プロボノで 地方創生に貢献する

NECでは、従業員の持つプロフェッショナルスキルを社会課題解決に活かす「プロボノ」活動を、NECグループの社会貢献活動「NEC Make-a-Difference Drive」の一環として推進しています。

当年度は、宮城県女川町で、地元の自然素材を活用した手作りの石鯰を製造・販売する（株）アイローカル（三陸石鯰工房KURIYA）の業務プロセス分析と業務システムの導入を支援しました。

また、NECは2011年より、従業員が被災地でボランティア活動を行う東北復興支援活動「NEC“TOMONI”プロジェクト」に取り組んでいます。2015年には南三陸町と復興連携協定を締結し、毎月末に行われている「復興市（ふっこういち）」なども支援しています。



女川町での打ち合わせ

株主・投資家との対話を 企業価値向上につなげる

当社は、執行役員社長やCFO、経営企画本部IR室を中心に、国内外の株主との面談や四半期ごとの決算説明会、事業説明会などのIR活動に注力しています。同時に、対話から得られた知見を経営陣へ積極的に展開すると共に、取締役会でも定期的に報告しています。当年度は、2020中期経営計画の発表を契機とした対話機会の充実に努めたほか、環境分野に特化した機関投資家とのESGミーティングも継続開催しました。



社長スモールミーティング